

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和 7 年度 技術情報第 12 号（普通期水稻の斑点米カメムシ類）について（送付）

普通期水稻の斑点米カメムシ類について、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>）にも掲載しています。



令和 7 年度 技術情報第 12 号

普通期水稻周辺のイネ科雑草地での斑点米カメムシ類の発生は平年並みですが、一部で発生が多い地点も認められています。出穂期前後からは場内をよく見回り、適期防除により、被害防止に努めましょう。

1 対象病害虫 斑点米カメムシ類
(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ、イネカメムシ、アカスジカスミカメなど)

2 対象作物 普通期水稻

3 情報の内容

(1) 発生地域 普通期水稻地帯（県本土）
(2) 発生場所 水田周辺のイネ科雑草地
(3) 発生量 並

4 予報の根拠

- (1) 8月4日～6日に普通期水稻周辺のイネ科雑草地（28地点 112箇所）を調査した結果、斑点米カメムシ類の捕獲箇所率は81.3%（平年80.1%）、平均捕獲虫数は7.2頭（平年7.1頭）と平年並みである。なお、アカスジカスミカメの甚発生が一部の地点で認められる（表1）。
- (2) 県全体における斑点米カメムシ類の程度別発生箇所割合は、中程度以上が18.8%（平年22.2%）と平年並みである（表1）。
- (3) 県全体の種別構成比の割合はアカスジカスミカメが46.7%と最も割合が高く、次いでホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ、イネカメムシの順に高い（表2）。
- (4) 県全体のイネカメムシの捕獲箇所率は4.5%（平年11.7%）と低く、平均捕獲虫数も0.1頭（平年0.4頭）と低い（表2）。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 水田周辺の雑草地などが飛来源となるので、出穂の10日前頃までに畦畔の草払いなどは場管理に努め、発生密度の低下を図る。
- (2) 斑点米カメムシ類の防除は、穂揃期と穂揃期の7～10日後（乳熟後期）の2回防除が基本である。特に乳熟後期の幼虫の発生には十分注意する。

- (3) イネカメムシの本田での発生は出穂期頃で、発生が多いと減収する。本種は他の斑点米カメムシより発生がやや早いため、出穂期前後にはほ場を見回り、本種の発生を認めたら、直ちに防除を実施する。
- (4) 防除は農薬の使用基準を遵守し、農薬がほ場外に飛散しないようにする。

6 参考データ

表1 普通期水稻周辺のイネ科雑草地における斑点米カメムシ類の地域別捕獲状況
(令和7年8月4日～6日)

地域 ^{注1)}	調査箇所数	捕獲 ^{注2)} 箇所率	平均捕獲虫数	程度別発生箇所割合(%) ^{注3)}					中程度以上の発生割合合計
				甚	多	中	少	無	
南薩	20	70.0	3.7	0.0	0.0	10.0	60.0	30.0	10.0
北薩平坦	40	77.5	4.6	0.0	0.0	17.5	60.0	22.5	17.5
北薩山間	40	87.5	11.1	4.5 ^{注5)}	2.5	12.5	67.5	12.5	19.5
大隅	12	91.7	8.8	0.0	0.0	33.3	58.3	8.3	33.3
県全体	112	81.3	7.2	1.8	0.9	16.1	62.5	18.8	18.8
県全体 ^{注4)}		80.1	7.1	1.4	3.4	17.4	57.5	20.3	22.2

注1) 南薩:日置市(1), いちき串木野市(1), 南九州市(3),
北薩平坦:阿久根市(1), 出水市(2), 薩摩川内市(3), 霧島市(2), 始良市(2),
北薩山間:薩摩川内市(1), 伊佐市(4), さつま町(4), 湧水町(1)
大隅:鹿屋市(1), 曾於市(2)の計28地点
注2) 捕獲箇所率(%)=捕獲箇所数/調査箇所数×100
注3) 発生程度基準:すくい取り調査(捕虫網20回振り)の捕獲虫数(甚:61頭以上, 多:60~31頭, 中:30~11頭, 少:10~1頭, 無:0頭)
注4) 平年は過去5か年(2020~2024年)の平均値
注5) 発生はアカスジカスミカメ

表2 普通期水稻周辺のイネ科雑草地における種別捕獲状況 (令和7年8月4日～6日)

地域	調査箇所数	項目	クモハリ	ホリハリ	ミナミアオ	シラホシ	イネ	アカスジ	合計
			カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カスミカメ	
南薩	20	平均捕獲虫数 ^{注1)}	1.1	1.5	0.0	0.1	0.0	1.0	3.7
		捕獲箇所率(%) ^{注2)}	20.0	50.0	0.0	5.0	0.0	20.0	70.0
北薩平坦	40	平均捕獲虫数	0.8	2.7	0.0	0.6	0.2	0.3	4.6
		捕獲箇所率(%)	7.5	62.5	0.0	25.0	10.0	15.0	77.5
北薩山間	40	平均捕獲虫数	0.1	3.6	0.0	0.1	0.1	7.3	11.1
		捕獲箇所率(%)	7.5	75.0	0.0	7.5	3.0	47.5	87.5
大隅	12	平均捕獲虫数	0.4	3.7	0.1	0.2	0.0	4.4	8.8
		捕獲箇所率(%)	8.0	75.0	8.0	8.3	0.0	75.0	91.7
県全体	112	平均捕獲虫数	0.6	2.9	0.01	0.3	0.1	3.3	7.2
		捕獲箇所率(%)	9.8	66.1	1.0	13.4	4.5	33.9	81.3
県全体 ^{注4)}		種別構成比(%) ^{注3)}	8.1	40.6	0.1	3.5	1.0	46.7	100.0
		平均捕獲虫数	0.8	2.0	0.0	0.2	0.4	3.1	7.1
		捕獲箇所率(%)	23.9	59.6	2.0	7.4	11.7	37.6	80.1
		種別構成比(%)	10.3	34.7	0.9	3.0	5.2	45.9	100.0

注1) 平均捕獲虫数=総捕獲虫数/調査箇所数
注2) 捕獲箇所率(%)=捕獲箇所数/調査箇所数×100
注3) 種別構成比(%)=捕獲虫数/総捕獲虫数×100
注4) 平年は過去5か年(2020~2024年)の平均値



成虫 幼虫 穂を吸汁するイネカメムシ
(黄褐色で背部両面に白色帯, 成虫の体長: 約13mm)

図1 イネカメムシ成虫, 幼虫